



第25号

発行：長野県弓道連盟
会長 山川茂樹
〒396-0021
伊那市大字伊那3919-3
TEL0265(72)3060
編集：県弓連広報部
印刷：中央堂印刷社

「射品」「射格」を求めて

長野県弓道連盟 副会長 土川俊市
指導部長

人生いろいろ、考え方も十人十色です。従って、弓の道に入った動機も言に及ばずであって、弓の道を極めんと志す弓人の思いもさまざまであります。

しかるに、弓を学ぼうとしている弓人の多くは弓道の本旨を理解し、優雅にして三位一体の射行に射品・射格の域を求めようとしています。

人は物事を極めると風格が現れると言いますが、極めるに至らずも何とか極めて世に言う品格の一端を成就したいと常に願うものであります。

しかし、弓道における射品・射格は、言葉での表現ができないもので、所作においても表そうとするのではなく、自然に滲み出てくるものであります。



う。その姿や所作が無駄なく息をもつかせず、その場の空気を占有し凛として人々と感動を共有できる場面が展開されれば、至福の境地を味わうことができる。その場に立つ弓人は、教本で窪田真太郎先生は、「その体には必ず、射はもとより、基本体、基本動作たる

体配の修練に刻苦勉励した、その人の誠意が、裏打ちされているからである。そうした体配の第一は、動作に呼吸息合い・氣息)を使つてゆくことです。その呼吸は、小さい動作ほど、意識して使わなければならない、この呼吸があるから、総ての動作は生きて、一つの流れになってゆくのです。」と述べておられます。

「ならば日々の稽古においてその事を心掛けているであろうか？」

大切なのは道場内の空気というか、環境にあるとも思います。

思い思いの稽古の中に一人だけが勝手なことはできないでしょうし、平素の弛まざる修練によるとはいえ、なかなか意に添えないのが現状でしょう。しかし、例えば月の何日かを目的を

持った稽古日と定めるなどを実践してみませんか。

その場のつくろいは剥がれます。「射格」を構成する射形射技はある程度先天性のものがあるにせよ、「射品」は日々の修練次第であると思います。

趣味として始めた「弓道」ではあります。弓道即生活(人生)と思えば、人格を陶冶し教養を高め、射行の研鑽を重ねていきたい。

射行は人格を表すといえます。日々の稽古も体配と射技が一体となり全身が集中して、無駄のない(無駄のない射が最も美しいと言います)射行をすることで、少しでも自然と滲み出てくる何かがあると思います。

更に、発する一本の矢に全精力を集中させる気迫ある射射を目指したい。そのことは入場から始まる所作のすべてが関係しており、どれ一つとしてこの程度で良いというものはなく、またこれで完璧というものもないと思えますが、常に謙虚な心を保ち、最善と

誠意・精力を尽くしてすすめられる射行の「会」で最後には、心身をこの矢に託して、射貫く気迫と血の通い脈うつ調和のとれた射を心掛けたいと思いません。

平成20年度

県弓道連評議員会報告

事務局長 北村 弥昌

1月27日塩尻市ホテル中村屋において、平成20年度評議員会が開催された。山川会長から、昨年度の県弓道連事業への協力、特に国際弓道連盟設立・追悼会等に積極的な協力をいただいたことへの御礼。

秋田国体・全国中学生大会の活躍評価。講習会・審査への参加者が減少傾向への懸念。19年度の会計に収入減、支出増となったが、20年度に会員の積極的な参加を希望。

若い弓道人の指導育成に尽力依頼。IT化が軌道に乗りつつある中で、確度の高い情報提供に協力依頼。事業年度・会計年度の変更には条件整備が必要のため、しばらく時間を置きたい。との挨拶がありました。

- 1、平成19年度事業実施報告
- 2、平成19年度補正予算
- 3、平成19年度決算報告
- 4、会計監査報告
- 5、会計処理規程の制定



- 6、旅費支給規程の改訂
- 7、報酬支給規程の改訂
- 8、表彰規程の改訂
- 9、平成20年度事業計画
- 10、平成20年度予算
- 11、その他の協議事項
- 会員名簿は、個人情報保護の観点から、氏名・称号授与年月日・段位認許年月日・ID番号を記載したものを配布する。
- 12、報告事項
- 支部対抗射会総合優勝旗について、追悼射会の遺志金をもって購入したい。

全日本弓道連盟評議員会報告

評議員 土川 俊 市

平成十九年度通常評議員会が三月九日全弓連中央道場において開催され、外園公毅評議員とともに出席いたしましたので、その結果の概要を報告いたします。

今回の通常評議員会は寄付行為の一部改正と平成二十年度の事業計画(案)・行事計画(案)・分担金(案)・収支予算書(案)・全弓連役員改選が主たる議題でありました。

事業計画ではその多くは毎年計画実行されている諸事業のほか、新規事業として、高体連弓道専門委員長研修会のほか、短期・中期・長期の各計画事業として、会員管理システムの改善・公益法人制度の改革また全弓連創立六十周年記念事業等々の事業推進が予定されております。

次に分担金について、本県弓連は実績割一三六千円、均等割五〇千円の二八六千円で全国六番目の納入額となります。

全弓連役員改選が行われ、会長に鈴木三成先生が留任され、副会長に山下三ヶ十先生と石川武夫先生が就任さ

れました。

今期で副会長を退任された斉田徳明先生・鈴木住尚先生のご労苦に対して惜しみない拍手が贈られました。

なお、評議員会では監事の留任も承認いたしました。

報告事項では、公益法人改革・システム改善・創立六十周年記念事業の各特別委員会から推進状況報告がなされ、それぞれが進行中であり、今後具体的になつたところで事業決定されていくものと思えます。

その他中学校校武道必修化の対応や事務局業務の改善、更に国際弓道大会の決算状況報告、又今年度から対象となります京都大会と定期中央京都審査に関する会場設営計画等の説明と報告がありました。了承されましたが、その内容につきましては、今回の紙面での報告は省略し次の機会にさせていただきます。報告といたします。

長野県弓道連盟
ホームページ

URL
↓
<http://kyuren.cool.ne.jp>
Email:kenkyuren@yahoo.co.jp

連載⑨

私の歩んだ道

大久保秀雄

冒頭で述べた「無発の発」が、弓道を行う上での座右の銘だとすれば、「細心大胆」という言葉は、私の日々の生活を支える座右の銘である。

これは伊那高等女学校の校長などの後に県弓道連盟の会長もされた春原平八郎先生が、第12回東京国体で長野県の監督をされた折、私を含む男女3人ずつの選手を宿舍の一室に集め、真っ白な紙に鮮やかに書いて訓示してくれた言葉である。

これは、何をやる時にも事前にきちんと計画、点検し、細かい所までチェックして準備を整え、行動は全力で大胆に行いなさい、という意味だ。

また、高齢になればなおさら、事前の準備に万全を期することの大切さを実感できるものである。この言葉は、ぜひ弓道を志す後輩たちへ贈りたい。また後輩たちへはあと4つの言葉を贈りたい。

その1、「基本を大切にいなさい」。スポーツで大切なのは基本。いつも初

心を忘れずにまじめな気持ちで実行するべきことをお勧めしたい。

その2、「基本の積み重ねは上達への近道である」。基本を完全に履行することとはとても難しく、基本に近づけるだけでも何年もかかると思うが、確実に良射へ近づけるはずである。

その3、「施して酬を求めず、受けて恩を忘れず」。善光寺

大僧正、林亮天先生から教えられた言葉だが、ポラントイアには報酬を求めず、

受けた恩は生涯忘れな

い、という意味だ。弓道を指導するときなどはいつもこの気持ちを忘れないようにしている。

その4、「われ以外は皆師なり」。後輩であっても教えられることは必ずある。この気持ちを忘れず、常にグルーブなどに溶け込んで行動すべきである。

また、冒頭で述べた「なぜ私が今まで弓道を続けてくることができたの

か」についてだが、きっかけは長野商業時代、たまたま仲間と比べへの当たりが良かったことにある。

いつも選手に選ばれ、県内各地で行われる射会に出席したことで各地の射手との交流ができた。

全国にできた掛け替えのない知人たちのおかげで随分視野も広がった。



「無発の発」を求めて一期一会の矢を射た残心(残身)

趣味を持つことはいい。それだけで生活が豊かになり、愉快になる。幾つもの趣味を持つことも楽しいだろう。とはいえず

すべてをマスターするのは難しいはずだ。自分に合った趣味を生かすのが最良ではないだろうか。

今、しみじみ弓道を続けて来てよかったと感じている。これも家族の多大な協力のおかげと感謝の気持ちでいっぱいだ。

長野オリンピックの閉会式で司会者の萩本欽一氏が言った言葉が忘れられ

ない。「宇宙に飛び立った飛行士は、最初に自分の母国を指差した。3日目は大陸を指差した。5日目以降には地球のこししか頭になかった。私たちの古里は地球だ。いつまでも平和でありたいものです」。

昔は戦の道具であった弓も、今は平和を旨とする弓道へと姿を変えた。だから、大げさな話と思われるかもしれないが、今の世界情勢を見るにつけ、世界中の人が武器を捨てて弓道を学べば、もっと地球が平和になるのではないか、と思えてならない。

これからも道場へ通える間は現役で弓道を続けていきたい。道には到達点はないからだ。どこまでも私は歩き続けるつもりだ。そして、後輩の育成にも力をささげていきたいと希望している。

平成15年秋の叙勲で旭日双光章の光栄に浴したのも弓道のおかげとしみじみ感謝している。

今月号で「私の歩んだ道」終了となりました。大久保秀雄範士に心から感謝申し上げ、お礼いたします。

『長野運動公園弓道クラブ』

「平成19年度武道優良団体」として日本武道協議会より表彰される

武道の普及や発展に貢献している個人や団体を讃える日本武道協議会の功勞表彰を、一月十四日、東京の日本武道館主催の新春行事、「鏡開き式・武道始め」でクラブを代表して、大久保秀雄会長が受けました。

昭和五十三年より長野市教育委員会体育課主管の初心者弓道教室修了者が、更に研修を続けたいとの願いから弓道クラブが結成されました。

発足当時は、大久保秀雄会長以下四十名でしたが、現在は百七十三名とな



表彰状を受ける大久保会長

り範士三名、教士十一名、錬士十九名と称号者有段者も年々増え、全日本選手権、京都全国大会、国体出場選手も多く、立派な成績を収めている。又地域における講習会の講師、審査会の審査員としても活躍しています。

発足時は、体育館の三階に弓道場があり、殆ど未経験者が多く、安土に届かない矢がカラカラと床を滑って賑やかでした。

五十五年到现在の弓道場が新築されました。練習は毎週火曜日、木曜日に昼の部、夜の部に別れ二時間、木曜日は昼夜各六名の講師により体配、射技、学科を勉強しています。月末には、月例会射会を行い、年度的中賞「皆勤賞」「精勤賞」を授与し、高段者も低段者もなく和気あいあいのうち競射しています。

年中行事として新年射会、遠的射会、(前期・後期)クラブ講習会、創立射会、三十射会、

昇格昇段祝射会、総会年度末射会を行い技能向上に励んで居ります

クラブ行事の開会式には、クラブ員の作詞作曲によるクラブの歌「弓友」「運動公園弓道クラブの歌」二曲を全員で斉唱します。

八十代の高齢から、最近では中学生



長野運動公園弓道クラブ

の入部もあり、層が広がりましたが、弓友皆師也」を常に頭の中に一人、一人が和をもって「生涯学習」として弓道を学び励んでいくことにより、今後、クラブ」が益々発展していく事を願っています。

又これまでご協力いただきました県弓連の皆様やご家族のみなさま方に深く感謝して居ります。

長野運動公園弓道クラブ副会長

宇野 久子

第二回チャリティーバザー

長野支部の恒例の「忘年射会」が十二月二日長野運動公園弓道場で行われましたが、それと並行して「チャリティーバザー」を行いました。

出品店数一七五点、成約点数一一七点(六七%)

会員のご協力もあって、弓道関係の小物・和服・日用品・農産物等会場一杯に商品が陳列され大好評のうちに無事終了致しました。

お陰様で「NHK歳末助け合い」に二九、八五七円の寄付をすることが出来ました。

大山 孝吉

指導力向上指導者講習会に

参加して

教士七段 小池梨枝子

二月二日～三日の二日間、標記の講習会を外園先生と受講させていただきました。全国的な寒波で東京は二年ぶりの大雪といった大変な日。広々とした道場で見取り稽古等の時はガタガタ震えていましたが、射位に立つとそれがピタッと止むのだから不思議です。また講師陣の豪華な事!!滅多に見られないその先生方による射礼を二日間とも拝見し「ああ自分の目がビデオカメラになっていたらいいのに」と嘆息しきりでした。(何度でも見たい!)

全国からの教士受講生63人を4班に分けての射礼実習では、緊張と寒さで体が固まってしまい、いうことを聞いてくれません。でもその都度ご指導を受け、何とか付いて行こうと懸命に励みました。雪の二日目は天候を考慮し、射技指導が割愛され射礼実習と一矢のみの仕上げ射射。これでお終いだし、ご指導いただいた結果を出したい!と、気合いの籠った的中音が凍てつく射場に続出しました。全員真剣な面持ちで

臨み、退場してからもまだまだ隙を見せない背中がそこにありました。

今回改めて確認させられた事。体配にしる射技にしる、それは何の為にどうしてそのようにするのか。こうしたら何故いけないか。普段何気なく、根本まで深く考えもせず言われたことだけを真似しがちな己を反省。手先足先といった末端を動かすのではなく、体の中心から息合いと共に発する動作に心を込め、意味合いをも考えながら稽古を重ねて行きたいと再認識した次第です。ゴールの無い、遠く果てしない道程を仲間と共に悩みながら、有意義な講習会を受講させていただき、衷心より感謝申し上げます。



2008.2.3 雪の明治神宮中央弓道場

弓仲間紹介

「旧友、そして弓友」

諏訪支部 志村 仁

弓道を始めて早十五年、沢山の方々と触れ合いながら弱き精神と射技を高め今の自分が此処にいる。

今回の紹介文では、幼き頃より周知の友人について話をしようと思う。



弓友の中村君と

んだ。その時の衝撃は今も忘れない。それは彼にとっても同じであった様で、高校へ進学して一緒に弓道をやるうと、その時約束した事を今でも鮮明に覚えている。

高校は別々となつてしまつた為、残念ながら彼と学生時代、一緒に弓を射る事は叶わなかったが、お互いが自分の通う高校で弓道部員となり、射行の修練を積んだ事は言うまでもない。

時が経つのは早く、私も一端の社会人となつた頃、彼とは疎遠になつていた。しかしながら同じ弓の道を志した者同士である。偶然の再会を果たし、十五年前の約束を叶えようと互いに弓を取り合い今日に至っている。

彼、中村宏君とは小学校時代の級友である。当時からよく二人で遊んだものだ。それは中学生になつても変わる事無く、楽しい学生時代を過ごしていた。

そんなある日の事、二人でいた時に向陽高校の弓道部員が道具を担いで練習に向かう姿を偶然見かけた。

それが二人にとって初めて弓道と触れ合つた瞬間であった。弓具を持った先輩のその姿は「威風堂々」としていて、大きな存在として私の目に飛び込

「射は仁の道」と言つ。「仁」は儒教に於いて最高の徳目とされるが、要は関わり合う全ての人への思いやりを説いているのだと解釈している。彼との繋がりもその一つだ。これから二人切磋琢磨しながら、お互い高みを望んでいこうと切に思う。

地連幹部講習会に参加して

教士六段 重田 功

3月15・16日の両日石川県小松市営弓道場に於いて、表記講習会が開催された。各地連より22名の受講生が参加された。講師には全弓連副会長長範士八段石川武夫先生、範士八段菊地又工先生の二名で二日間に渡り指導を受けた。概要を記して弓士の皆様に参考になれば幸いです。

開講式で主任講師石川先生の挨拶で、一つ弓道教本第一巻により基本の動作を理解し正しく行う、二つ射法射技を正しく習得する事、三つこの会で習得した事などを地区に帰り正しく指導してほしいと話された。

矢渡は石川先生の気力溢れる息合に合った体配、まさに射法訓そのもの行射であり感嘆した。

介添いの指導では動作に気を付けるは元より、射手に対し神経をそそぎ、気合いを送ってやる心がまえがほしい。一手行射の講評で総体的に指摘された入場から本座までは腰で歩くよう、常などの動作でも縦線を生かす、息合に合わせての動作、目は何時も自然の

目線で、足踏みはやや広く取る、大三からの引分け押手が先に動くように勝手で引こうとしない右肘で引く、大三での手の内は軽く、引分けて本矧が目通を過ぎたら弓の中に体を割り入れるよう、会では押手を的の中に強く真っ直ぐに、離れは右肘から動くよう胸筋を前に出すよう体で離す、残身は息合に合わせて確りとり残身の残身との事を心掛けよ。

射技指導では前記の内から足踏み、手の内の働き、引分けの動作及び離れでの肘の働き方について繰り返し繰り返し指導を受けた。射礼研修では体配



はちよつとした動きを取り入れる事により礼に即した体配・射品・射格が自然に表現される事を学んだ。開講式で石川先生自身、今回ほど充

私と弓道

丸子弓道会 高木 賢一

社会人になって三十歳過ぎた頃、弓と出会い、友人の勧めで丸子の弓道教室に入会、そこから弓道人生の第一歩を踏み始めてから八年目。

弓道を始めた時は、射法八節や基本体など覚えることが多く、弓道用語で言われてもさっぱりわからず、ただ弓を引くのに無我夢中でした。先生方に審査を勧められどうにか「初段」を取ることができ、「二段」も簡単に取れるとの思いで挑戦、しかし期待はずれの結果に終わり、二度目の時は弦が切れてしまい、三度目は的に当たらず結果は不合格でした。四回目にしてやっと的に当たり二段合格出来ました。こうして合格できたのも、親身になって指導して下さった先生方の力添えがあったからこそ多くのことを学ぶことができ、次なる三段、四段へと道が広がって行けたことに感謝しています。

実した指導をした事は初めてであり、動作の注意点は八つの点があるが、あとの一つの点、肘の働きを入れて九点としたいと話され講習会を終了した。

今後の目標は、五段取得と五割の当たり継続維持できるよう、また一射一射ごと大切に引くようにしたい。まだまだ悩み多く未熟な射、これからもう一層稽古に励みたいと思います。



多くの仲間達との交流や大会・審査にも参加でき自分でも貴重な経験をさせてもらうことができたことに、弓道をやるときつけを作ってくれた友人と親身になってご指導していただいた丸子の先生方、諸先輩方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

平成20年度大分国体
長野県強化指定選手(少年男女)

少年男子(28名)

南信地区 窪田貢之・塚田滉巳(伊那北) 手塚浩司(下伊那農)

中信地区 倉科陽平(大町) 長谷川力也・林 義徳(木曾青峰) 前田洋介・渡邊研二郎(県ヶ丘) 赤岩駿也(志学館)

東信地区 井出宥介・斉藤秀和・内藤大和(岩村田) 大平佳慎・手塚 暁・宮島 凌・西川卓也(上田東) 原貴司・宮本靖孝・山本裕也(千曲)

北信地区 村田大樹(高専) 安藤直貴(須坂東) 春原崇喜(長野工) 牧深太・横田一真(中野西) 船田優哉(日大) 小出俊貴・徳武 怜・森泉海里(屋代)

少年女子(25名)
南信地区 上島由都・中村絵梨奈 伊那北) 西村柚実里(伊那西) 宮下枝里子(下伊那農)

中信地区 岩岡 恵・中村優子(県ヶ丘) 下里郁美・百瀬由美香・吉田美都(松商) 横澤 愛(志学館)

東信地区 井出陽香・佐塚仁美(岩村田) 三角なつみ(上田) 久保田幸恵

(上田東) 関 春香(小諸商) 宮原ちひろ(染谷丘) 荒川美奈・佐藤里砂(千曲) 小林芽生(野沢南) 青木梢絵・山田早織(飯山北) 澤田 茜(日大) 山田優衣(文大長野) 瀬在優実・滝沢郁実(屋代)

平成20年度大分国体
長野県強化指定選手(成年男女)

成年男子(9名)

小林大志(塩尻) 松井幸彦(安曇) 亀岡英司(南佐久) 森山敏広(上小) 市川隆光(諏訪) 清水伸浩(諏訪) 志村 仁(諏訪) 中村 宏(諏訪) 牧内和宏(飯伊)

成年女子(9名)
栗林 薫(松本) 高地美佐子(上小) 戸田裕子(上小) 清水和代(飯山) 本藤幸恵(長野) 高山寿恵(飯伊) 中川茉美(諏訪) 原 美雪(諏訪) 毛利明日香(諏訪)



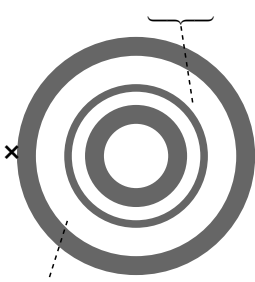
投稿
バレンタインデー
の贈り物
長野支部 長野運動公園弓道クラブ
小松 紀基(67歳 武段)

全く偶然。平成20年2月14日午後1時ころ。自由練習で4射目が「ピキッ」と異様な音を立て、3射目の的中央に当たる。

長野運動公園弓道場の第1射場4番的。この日午前は、宮澤廣範士、小池梨枝子教士の指導日で、手の内などについて厳しいチェックを受けた。それを思い返しながら、練習に入る。4射

目(乙矢)が的でクラツと揺れ、その1本しか見えない。甲矢は消えた! どうなったんだ! 不思議な一瞬だった。長野市の弓道教室で轟悟、大久保まき子両教士の生徒として、丸3年になる。クラブの称号者をはじめ諸先輩、皆々様の有形無形のご指導や温かさの賜物と、今回の「継矢」を心得て、これから修練に励みたい。

(継矢)



(撮影は加藤明美練士)

審査合格者

東京連合審査 3月2日 東京
 五段の部 内野 貴文(松本)
 女子特別審査 3月3日 福岡
 六段の部 加藤 明美(長野)

各地大会



第15回中野冬季100射会

2月17日/中野市営弓道場
 参加者50名

中村 宏(諏訪) 91中 市川隆光
 (諏訪) 90中 亀岡英司(南佐久) 83
 中 林 英彦(中高) 73中 大島勝巳
 (新潟)・土屋義雄・

講習会報告

◆指導力向上指導者講習会受講者名◆

2月2日~3日/全弓連中央道場
 教士七段 外園公毅
 教士七段 小池梨枝子

◆北信越地区地連幹部講習会受講者◆

3月15日~16日/石川県小松市弓道場

教士七段 古澤金蔵
 教士六段 平野英孝 宮下重敬
 北村弥昌 重田 功
 大久保まき子

◆春季講習会◆

3月30日

東北信地区第1班
 長野運動公園 講師 土川 俊市教士
 受講者 43名

東北信地区第2班
 上田城跡公園 講師 山川 茂樹範士
 受講者 30名

中南信地区第1班
 塩尻市営 講師 大久保秀雄範士
 受講者 48名

中南信地区第2班
 飯島町営 講師 宮澤 廣範士
 受講者 32名

ご冥福をお祈りします

平成13年から県弓連監事の要職
 をお務めいただきました吉澤 清
 先生(大北支部)が1月24日で逝
 去されました。謹んでご冥福をお
 祈り申し上げます。

◆女子講習会◆

4月5日~6日
 県営飯田弓道場
 講師 秋山 照美範士(山梨県)
 受講者 35名



東北信地区第2班 講習会

県弓連人事

井垣貴夫氏(松本支部)

監事に選任

欠員であった監事の後任として、井
 垣貴夫氏の県弓連監事への選任につい
 て、県弓連規約第23条の規定により、
 評議員あて書面による賛否を求めたと
 ころ、評議員全員の賛成を得たので評
 議員会の議決とする。

平成20年2月6日

長野県弓道連盟会長 山川 茂樹

編集後記

この原稿を書いている今は、一面の
 雪景色ですが、第二十五号が発行され
 る頃には、満開の桜に囲まれていると
 思います。

評議員会・長野支部総会と大きな行
 事も無事終えホッと一息というところ
 です。

連載中の「私の歩んだ道」(大久保
 秀雄先生)も、好評のうちに最終回に
 なりました。思えば、先生に掲載のお
 願いをしたのが、つい昨日の様に思わ
 れます。紙数の都合で、先生の原稿を
 かなりカットさせて頂いたにも拘わら
 ず快くご諒解してくださり、ホッと胸
 をなでおろしたものでした。

今後も、皆さんに喜んで頂ける様な
 記事の掲載・内容の充実に努力するつ
 もりです。

県内17支部・中・高校・大学の弓道
 部等の出来事など、身近なニュースも
 皆さんからご提供・投稿して頂ければ
 と夢を描いております。

どうぞご理解とご協力をお願い致し
 ます。

大山 孝吉